



女性の視点を取り入れた 積極的かつ継続的な防災活動



東京都日野市 万願荘自治会防災防犯会
代表 松本 久江

1 はじめに

平成 22 年に女性リーダーを中心に『出来る人が！出来る時に！出来る事から！』をモットーに女性 13 名男性 7 名で「万願荘自主防災防犯会」を作りました。現在では女性 17 名、男性 34 名が活動をしています。

2 女性部会（通称：女子会）の活動

発足当時から女性会長を中心に毎月女子会が行われ女性ならではの視点から、自治会にある様々な問題を浮き上がらせ防災防犯活動に結びつけています。平日の日中に発災した時は地元に残る女性の活躍が重要となることから、防災意識を地域内に広げることから活動を始め、P D C A を常に回し地域自治会をリードしています。

3 防災訓練の実施

毎年交代する自治会幹事に防災知識を広げるため年 2 回の防災訓練を実施し、カマド焼き炊飯訓練とミニ学習会で防災知識を学ぶ訓練を行っています。ミニ学習会では女性リーダー考案のカセットコンロとビニール袋で簡単に出来る非常食作りが好評でライフラインが止まっても温かな食事が出来ると口コミで情報が広まり、他の自治会や団体などから講習会の依頼もあり、女性部会と幅広い世代の交流ができ地域自治会・P T A などの活性化に繋がっています。

一方、日野市から支給された防災用品のカマドの炊飯も初めは失敗続きでしたが、今では女性部会の誰でも簡単に火起こしや見事な炊飯ができる様になり、地域自治会にカマドの炊飯など普及活動も行っています。



防災訓練



ミニ学習会

4 救急安心カードの普及と安心に暮らせる自治会を目指して

平成 25 年から女性のコミュニケーション能力を活かし定期的に高齢者宅を訪問し、かかりつけ病院や既往歴などを確認するとともに、住民自らがそれらと緊急連絡先等を記入できる「救急安心カード」の普及に力を入れています。今では自治

会の約半数 122 世帯（186 人）まで参加者を増やす事ができ、高齢者・要配慮者の実態把握も進み地域の安心安全の向上に努めています。この活動で一人暮らしの高齢者宅に救急車が来た時、かかりつけの病院・家族への連絡もスムーズにでき、活動の成果も出ています。



救急安心カード

5 ふれあいサロン万願荘の立ち上げ

万願荘自治会は日野市でも高齢化率が高く高齢者の健康管理や居場所作りが大きな課題と考え、平成 29 年 6 月に「ふれあいサロン万願荘」を立ち上げ毎週金曜日の午後、高齢者向けの「ひの健康貯筋体操」や「茶話会」の居場所作りを始めました。地域内で会話もあまり無かった参加者が食事会や買い物に行くなどコミュニティが広がり、「水彩画」「俳句」「輪投げ」など同好のサークルもできるなど盛り上がりを見せています。



ふれあいサロン万願荘

また、外部講師を招いて健康や薬など興味がある講話や趣味の披露なども取り入れて活動をしています。女性会員の協力でスムーズな運用ができ、毎週 20 名～30 名が嬉々として集り高齢者の楽しい集まりができています。

6 防災マニュアル「万願荘まちづくり」の作成

「万願荘まちづくり」には女性視点で作成した緊急持ち出し品リスト、自治会内の危険場所を地図に記入、グループ分けした避難誘導路などきめ細かな内容を分かり易く図を多くするなど工夫を凝らしました。女性リーダー考案のビニール袋で作る簡単な非常食レシピ等も取入れ充実した防災マニュアルが完成しました。マニュアルの作成には東京都地域の底力再生事業助成をいただき自治会地域全戸に配布しました。

7 その他

発足時より「万願荘防災かわら版」を年 4 回発行するなど継続した防災活動が認められ、東京防災隣組第四回認定（平成 27 年）、消防総監感謝状（防災シンポジウム 2016 事例発表 平成 28 年）、第 14 回「地域の防火防災功労賞」最優秀賞（平成 30 年）を受賞しました。

防災機材の不足から女性会員が空き缶を回収して簡易トイレ、大型テント、折りたたみリヤカーなど購入し苦勞して防災活動を行っていましたが、平成 28 年に自治総合センターから多くの防災機材の支給を受け防災設備も充実し地域防災の模範となるべく活動を展開していきます。